



北九州市東京事務所では、北九州市の関係人口の拡大を目的に首都圏でさまざまなイベントを開催しています。

2017年度から2020年度までは「KitaQフェス in TOKYO」を年に1度開催。広く首都圏在住者を対象に、北九州市の魅力発信に取り組みました。

昨年（2021年）は、首都圏の大学生を対象にしたイベント「スイーツ開発で北九州の魅力発見!!～マーケティング&SDGsを学んで、目指せ！商品化～」を開催。大学生が北九州の魅力を発見して、北九州都市圏域の食材を活用したスイーツのレシピを考案し、優秀作品を商品化して北九州市内のカフェにて販売しました。

そして、**今年（2022年）は、首都圏の大学生が北九州都市圏域の産品を活用した調味料の開発に取り組みます。**

題して、「食品開発で北九州の魅力発見!!～マーケティング&SDGsを学んで、目指せ！商品化～」。

このイベントでは、首都圏の大学生を中心に、北九州都市圏域の食材を活用した調味料の開発を行い、SDGsの観点から企画・商品化・プロモーションを実施します。

ワークショップを2度開催した後、9月15日（木）に発表会を都内で開催。**優秀賞に選ばれた作品を、北九州市に本社を置く株式会社ごとう醤油が実際に商品化し、首都圏で販売する予定**です。

今回は「調味料」の開発ということで、味噌、醤油、ドレッシングなど対象が幅広いことが特徴。北九州都市圏域の産品が含まれていればOKなので、さまざまなアイデアが期待できそうです。

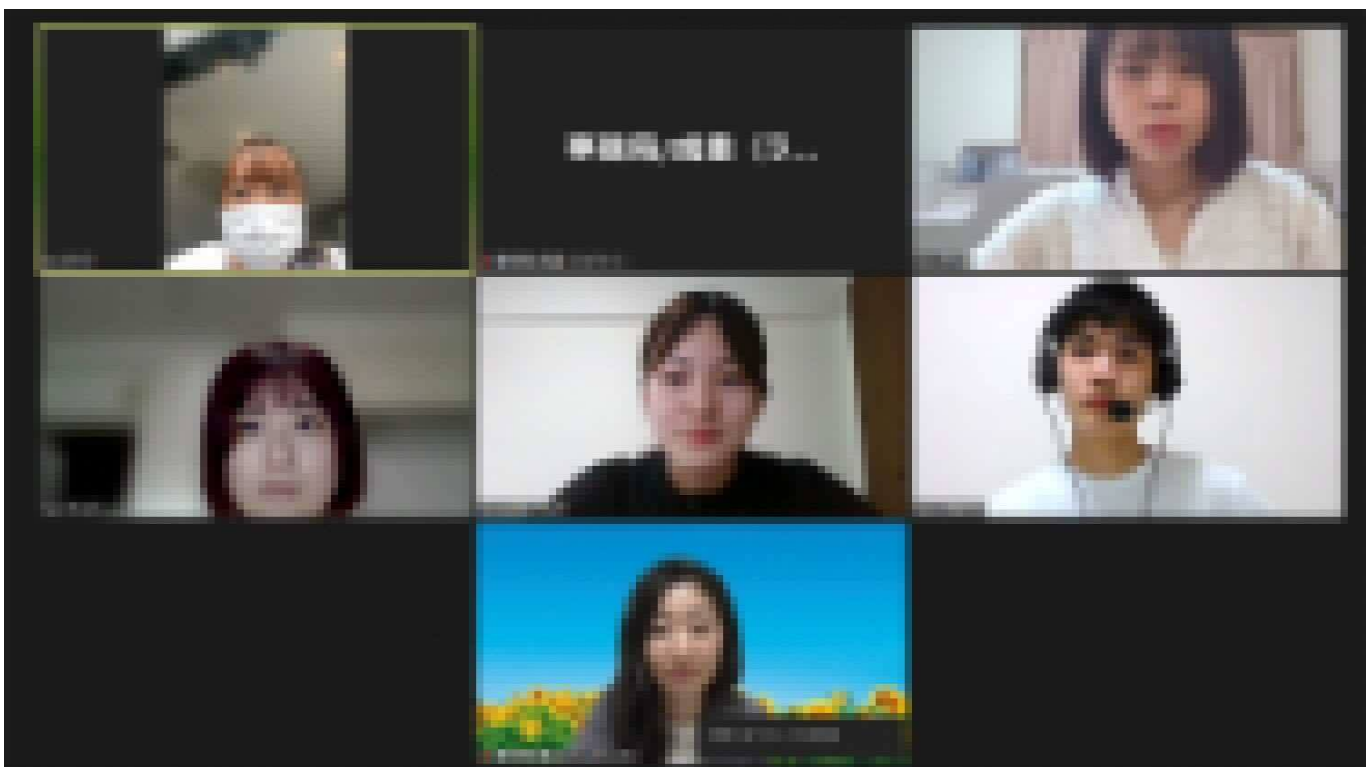
このたび、8月17日（水）に第1回のワークショップが行われました。

今回は明治大学、中央大学、日本大学、早稲田大学から参加した44名の学生と、各チームにアドバイザーとして参加する北九州市立大学内田ゼミの学生14名、合計58名が10チームに分かれ調味料の開発に取り組みます。

また、商品監修としてごとう醤油の代表、五嶋隆二さんと、食材に対してのアドバイザーとして東京栄養食糧専門学校の学生が参加しています。

今回のワークショップには、参加者それぞれがZoomで参加。

内田ゼミ制作の北九州市紹介動画を視聴した後、チームごとに分かれてワークショップを開始しました。同じ学校の学生で構成されているチームであっても、大半が初対面ということで、各チームとも自己紹介からスタート。好きな食べ物や趣味を言い合ったりして少しずつ場が和んでいきました。



ワークショップ1コマ目は「北九州市の食資源×ごとう醤油のサーチ」。

北九州市の産品や名物、市民が好む味の傾向などを首都圏の学生と北九州市立大学の学生とでコミュニケーションを取りながらサーチを進めました。

2コマ目のテーマは「商品開発コンセプト決定」。

農産物、水産物、畜産など、北九州市で生産される食材を中心に、誰に向け、どのような商品を開発するかを話し合いました。ペルソナを先に決めるチーム、開発する商品を先に決めるチーム、販売場所を意識した商品の制作に取り組むチームなど、さまざまな形で商品開発を検討しているのが印象的でした。

また、各チームを巡回するアドバイザーが、学生から出てきたさまざまなアイデアをフォロー。質問する学生につられ、回答するアドバイザーの熱量も徐々に上がっていきました。

2時間のワークショップはあっという間に終了。

川口 遥さん（日本大学）は「他大学との合同チームということもあり、普段関わらないような人たちともお話ができてすごく刺激になりました。商品の軸をどう決めるかについて、難しさを感じました」と話してくれました。

山田 菜穂さん（明治大学）は「北九州市については知らないことの方が多かったのですが、ごとう醤油さんや北九州市立大学の学生さんから教えていただいた情報を踏まえた上で、どこに注目して何を作っていくのかという意見を出し合うことができました」と振り返りました。

また、市原 薫さん（中央大学）は、「関東と北九州で食文化の違いがあることに興味を持ちました。商品案を出すにあたってはターゲットユーザーなどを具体的に決めてからでないと、意見を出しにくいと感じました。短い時間でしたが良い経験ができました」と満足そうな表情を浮かべました。

最後に、北九州市東京事務所・渡辺副所長からの「今日がスタートで皆さん緊張したことと思います。これからさらに、北九州市の魅力を知っていただき、各チーム、力をあわせて、学生さんならではのこれまでに無い、新しい、魅力的な商品の提案を期待しております」という締め言葉でワークショップが無事終了しました。

第2回のワークショップは9月1日（木）に行われます。

テーマは「レシピ考案決定と商品化（原価／販売価格／包装材等）」、そして「完成した商品の流通経路（直接販売or 間接販売）、販売価格の決定、プロモーションの方法」。いよいよ学生たちのアイデアが形になります！